

令和元年度(2019年度)事業報告

年 報

こころの樹



社会福祉法人 テレビ朝日 福祉文化事業団

はじめに

新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方に謹んで哀悼の意を表するとともに、感染症拡大の影響で今なお不安の中におられる方々に対して、心からお見舞いを申し上げます。

テレビ朝日福祉文化事業団は、昭和52年（1977年）にテレビ朝日が母体となって、民間放送系ではじめての社会福祉法人として設立され、「児童福祉」「母子福祉」「障がい者福祉」「高齢者福祉」など、時代の要請に対応しながら社会福祉事業に取り組んできました。

2019年度は、いくつか新型コロナウイルス感染症拡大のために開催中止になった事業がございましたが、次年度も更に影響が大きくなり、既に開催を中止する事業が相次いでいる状況です。しかし、こういう時こそ社会福祉のために、足元を固めて、さまざまな取り組みをしていく所存です。

児童福祉の分野では、関東甲信越静里親協議会と連携し、「里旅～BOARD&SKI」「次世代人材育成セミナー」という2つの新しい福祉事業をはじめました。家庭的環境の中で育てる里親制度の充実が近年強く求められている中、里親と子どもの絆を深めるのはもちろん、里親同士、子ども同士の横のつながりを拡げることで、質の高い里親養育へとつなげる一助になればと考えています。

母子福祉では、母子生活支援施設で生活している親子を対象として、テレビ局を身近に感じて、楽しい一日を過ごしてもらうことを目的に「テレビ朝日見学体験ツアー」を開催しています。

障がい者福祉では、「五感で楽しむ音楽会」で視覚や聴覚に障がいを持つ方も音楽を楽しめるような工夫を凝らし、大ホールがほぼ満席となる約900名のお客様にご来場いただきました。さらに昨年度から協力を開始した「NAKANO街中まるごと美術館!」では、今年度から主催する実行委員会の一員に加わりました。障がい者のアートの分野でも支援を続けていきたいと考えております。

高齢者福祉では、プロ歌手の方々を高齢者施設にお連れし歌謡ショーをお届けする「高齢者施設訪問」に、「DJ OSSHY ディスコショー」をラインアップに加えました。1960～80年代の懐かしのヒットソングに合わせて身体を動かし、笑顔あふれるひと時を過ごしていただきました。

テレビ朝日福祉文化事業団は、「共生～隔たりのない世界～」を願って、皆さまとともに「こころ」を一つにして、テレビ局の特性を生かしながら、さまざまな社会福祉事業を推進してまいります。今後とも、皆さまのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

社会福祉法人 テレビ朝日福祉文化事業団

社会福祉法人 テレビ朝日福祉文化事業団は、昭和52年（1977年）NETからテレビ朝日への社名変更を機に、より幅広い社会福祉活動を目指して設立されました。昭和26年（1951年）制定の社会福祉事業法〔平成12年（2000年）社会福祉法に法名改正〕に基づき、社会福祉の増進を図ることを目的として、第二種社会福祉事業を行う社会福祉法人として申請・認可されたものです。

Contents

● 児童福祉	2～13
● 母子福祉	14～15
● 障がい者福祉	16～23
● 高齢者福祉	24～25
● その他の福祉	26～27
● 令和元年度事業一覧	28
● 令和元年度会計報告	29～30
● その他	31～32

略語解説

(福) ……………社会福祉法人	(一社) ……………一般社団法人	(社) …………… 社団法人
(特非) ……特定非営利活動法人	(公財) ……………公益財団法人	(財) …………… 財団法人
(公社) ……………公益社団法人	(一財) ……………一般財団法人	(株) …………… 株式会社

表紙絵(アール・ブリュット作品紹介)

題 名:ゴリラがバナナを食べる。うほうほうほ カバがキャベツを食べる。ばくばくばく とりがりんごをつつくちゅん。蛇がいちごを食べるへビイチゴ。

制作年:2014年

阿山隆之 Takayuki AYAMA

1973年生まれ 東京都在住



よく落書きで絵を描いていたという阿山が本格的な作品の制作を始めたのは、20代半ばの頃。仕事でパンフレットのイラストを描いたことがきっかけである。木に描くようになったのは、描いた線や色が失敗しても削って再利用できる利便性と、阿山が通う施設では木工品の製作を行っており、自然と木材が集まってくる環境にあったからだという。木材の種類や形状はさまざまで、たんすの一部やドアなどに描かれたユニークな作品も目をひく。

制作方法は、最初にパーニングペンでモチーフの輪郭線を描き、線の内側に色鉛筆で丁寧に色を塗り込んでいく。モチーフは写真などを見ながら描くことが多く、時おり登場する童話の主人公たちは、幼い頃に読んだ絵本で印象に残っている物語を思い出して描くことがあるようだ。

150色もの色鉛筆を使い分けて描くという作品には、色にもこだわりがあるという。仕事でとんぼ玉の制作をしている阿山は、ガラスが溶けて混ざり合う色の美しさや面白さを、色鉛筆でも同じように表現しようとしているのかもしれない。

阿山独自の世界観で色鮮やかに描かれた愛らしい生きものたちは、その美しい色のハーモニーとともに観るものにさまざまな物語を想像させてくれる。

第1回 里旅 ～BOARD&SKI 2020～

さまざまな事情で実の親と暮らせない児童たちを家庭的環境の中で育てる里親制度の充実が、近年強く求められています。こうした中、当事業団では2019年度、子どもと里親のファミリーを対象とした参加型の新しいプロジェクトを実施しました。第1回は、長野県・白馬で、元オリンピック選手らプロのインストラクターによる本格的なスノーボード、スキーのレッスンを受け、冬の花火などのイベントも楽しむツアーとして企画しました。雪山と一緒に一つのことにチャレンジし、汗を流して語り合い、里親と子どもの絆を深めるのはもちろん、里親同士、子ども同士の横のつながりを拓くことで、孤立しがちといわれる里親間の協力や連携を促進し、質の高い里親養育へとつなげる一助にしようことが目的です。

初の企画でもあり、今回はテストケースとして開催。関東甲信越里親協議会に所属する計8家族26人が参加しました。内訳は大人14人、大学生2人、中・高校生2人、小学生8人です。スノーボード、スキーのレッスンを含め、全体の運営にあたっては公益財団法人神奈川県スキー連盟所属 野獣会スノーボードクラブのボランティアのみなさんに全面的な協力をいただきました。

新雪、絶好のコンディションの白馬

会場のHAKUBA VALLEY 鹿島槍スキー場は白馬エリアで一番南側にあり、グレンデから白馬山麓を望むロケーション。夜中からの雪でふわふわの新雪が数十センチ、更ににわか雪がどんどん降り積もっているという最高のコンディションになっていました。



白馬!

イメージトレーニングができたあとは、クラス分けです。自由に滑る大人、見学の大人を除いて、レッスンを受ける参加者は計20人。全くの初心者



準備万端!

から中級クラスまでさまざまです。が、元日本代表選手、プロ選手、プロのインストラクターら総勢11人が手分けして、スキー、スノーボードごとに、レベルに応じていくつかのクラスに分かれ、手分けして受け持ってくれました。

元日本代表選手らがマンツーマン指導

スキー超初心者の小学生4人はまず雪に慣れることからスタート。ブーツで雪の上を歩いたり雪合戦をしたりすることから始めて、リフトに乗る練習へ。午後からは、足への体重のかけ方を学ぶため、ストックなしでグレンデへ出てリフトで上へ。そこからインストラクターが密着して、足を「ハ」の字にしてゆっくりターンをして降りてくる練習を繰り返すとみんなめきめき上達し、最後はストックなしですいすい滑れるようになっていました。



はじめてのスキー

初級・中級合体クラスの11人は、慣らしも早々に、急斜面がある中級コースへ。固い急斜面を滑降する際の体重移動のコツを教わりながら、みんな次々とターンをマスター。こうなると新雪はとても滑りやすく、みんなで掛け声をかけながらハイスピードで滑降していきました。最後は、狭くてスピードコントロールが難しい「林道コース」にもチャレンジしました。



マンツーマンの指導

スノーボードは5人の受講にインストラクター5人、文字通りのマンツーマンでした。超初心者はグレンデ自体が全く初めてという小学生2人。足をボードに乗せるところから繰り返し練習を始めましたが、最後はボードを担いで登っていき、転びながらも滑って降りられるようになりました。大学生らが参加したそれ以上のクラスは、元日本代表選手らから直接インストラクターを受けるといったまたとないチャンスにやる気を出してどんどん上達、何本もこなしていました。



スノーボードに挑戦

午後3時にはレッスンを終えてテントに集まり、閉会式。子どもたちも大人も、ていねいに教えてくれたインストラクターのみなさんともすっかり仲良くなって、和気あいあいのうちに終了しました。

車座になって語らい

ホテルに戻り、温泉に入って一休みしたあとは懇親会です。参加者全員、インストラクター、みんなのレッスン中、映像撮影をしてくれたクラブのみなさんが大広間に集合。自己紹介を兼ねて感想を語り合ったり、お互いのことを話し合ったり、にぎやかなひとときを過ごしました。途中から、子どもたちは雪が積もったホテルの庭に出て、クラブのみなさんが用意してくれた手持ち花火でミニ花火大会。都会では花火をする機会もめっきり減ったためか、ドラゴン花火や線香花火で大はしゃぎ。



懇親会

一方、大広間に残った大人たちは、だれが言い出すともなく座布団を持って車座に集まり、里親としての自分の体験や悩み、各地域での里親を取り巻く環境、教育の問題などについて話し込んでいました。インストラクターで参加した方々は、こうした席でも里親ファミリーと接して交流を深めてくれました。



花火

午後8時を過ぎると、2月の土曜日だけ開催する「夢花火と音の祭典」というイベントが始まったので出かけることに。ステージでは、地元の人々が数十人で和太鼓を叩く「大町流鏝馬(やぶさめ)太鼓」を披露していました。ファミリーの子どもたちも他の子どもたちと一緒にステージに上がって、和太鼓にチャレンジさせてもらいました。一面の雪景色の中、フィナーレに大きな花火が何発も打ち上げられては林を照らし、幻想的で思い出深い一夜となりました。

里親の協力連携の契機に

今回の事業を通じ、参加した里親ファミリーからは「親も参加しての企画はあまりなく、子どもも揃って非



流鏝馬太鼓

日常空間を心から楽しめた」、「地域内では里親の交流はあっても、広く他の地区の方々と知り合い、お互いのことを話せたのは有意義だった」、「いろんな立場の大人に大切してもらえた実感が子どもたちの自己肯定感につながる」、「子どもたちが、自分だけが特別ではない、同じ子どもがいるんだと思える機会となった」といった声が聞かれました。

また、今回、レッスンやアレンジにあたってくれた野獣会スノーボードクラブのみなさんは、里親ファミリーを受け入れるにあたってどう接するか、どう楽しんでもらうか、何度も集まって議論を重ねてくれたそうです。終わってみて、「自分たちこそ学ぶことができた。里親についても身近なこととして理解でき、自分をアップデートすることができた」、「インストラクターを通して自分の壁を越えられるということを体験してもらえたと思う」などと話してくれました。

親と暮らすことができない子どもたちの社会的養護にあたっては、国は施設養護から家庭的養護への転換を図る方針を打ち出しています。しかし、里親の引き受け手が思うように増えない、里親になって養育上や地域・教育の問題に直面したり特別視されたりする悩みがあっても、相談する人が少ない、など幾多の問題を抱えています。

今回のような機会を通して、里親同士、支援団体の協力や連携、ネットワーク強化につなげていただけることを期待しています。一方で、今回多くの方々に協力していただきましたが、里親ファミリーと直接触れ合い、語り合う機会を通して、一人でも多く里親や社会的養育について理解を深めていただけることを願っています。

日程: 2020年2月7日(金)～9日(日)

場所: HAKUBA VALLEY 鹿島槍スキー場・立山プリンスホテル(長野県大町市)

参加者: 8家族26人

主催: テレビ朝日福祉文化事業団

後援: 関東甲信越里親協議会

協力: (公財) 神奈川県スキー連盟所属 野獣会スノーボードクラブ・HAKUBA VALLEY 鹿島槍スキー場・立山プリンスホテル

第1回 関東甲信越静里親協議会 次世代人材育成セミナー

里親制度の充実が強く求められているにもかかわらず、里親の引き受け手が思うように増えず、里親養育による子育ても複雑かつ困難なものになってきている状況です。こういった問題を、里親同士の繋がり（ピアサポート、ピアカウンセリング）により支援していこうというのが、各地域の里親会の役割です。

しかしその活動状況は志ある役員による手弁当の活動が主となっていて、役員には高齢里親も多いため、各地域の里親会では次世代リーダーの育成が急務となっています。

そこでこのたび、関東ブロックの19都県市の里親会によって組織される関東甲信越静里親協議会の主催で「次世代人材育成セミナー」が初めて開催されました。テレビ朝日福祉文化事業団は後援・助成という立場で、この里親会の活動を支援させていただくことになりました。

「よりそう」とは何か

2月8日（土）、大井町駅近くの会議室に、関東ブロック広域から20人の若手里親が集まりました。それぞれ異なる地域、里親会からやってきた参加者は、お互いに面識もなく、少し緊張した面持ちでした。

まずは、有識者の講演。一橋大学大学院社会学研究科の猪飼周平教授を講師としてお招きし、「子どもに『よりそう』とは何か」をテーマに講演していただきました。

里親に限らず、全国の子どもの保護者や、教育機関・医療機関の教職員などが、子どもに「よりそう」ということを無意識に行っています。しかし『「よりそう」とはいったいどんな行動なのか?』と問われると、なかなか言語化が難しいものです。これを猪飼教授の専門である社会学の視点で、「よりそう」とはいったい何なのか、日本の社会福祉システムにはいったい何が足りないのか、社会的養護の子どもたちに必要な支援は何なのかを、解き明かしていく講演でした。



既存の社会福祉制度のセーフティネットでは、どうしても「こぼれ落ちてしまう人」が出てきてしまう構造欠陥があり、全てのこぼれ落ちた人を拾う支援が必要だとの視点は目から鱗でした。また、「里親とは社会に足りない支援を供給する尊いプロジェクトだ」とのお言葉は、とても勇気づけられるものでした。

グループワークで議論を深める

続いては、グループワークの時間。参加者が4つのグループに分かれ、里親会が里親や里子にどのような支援をしていくべきかを議論し、大きなシートにまとめました。



グループワーク



各地域の里親会によって、支援のやり方や内容が異なることはもちろん、里親の在りようも様々なようで、情報交換の場としてもたいへん有意義なものだったようです。他の参加者のお話に「なるほど」「それいいですね」といった反応が多くみられ、参加者それぞれが、それぞれの地域の里親会の課題をみつめ、持ち帰りたいヒントをたくさん発見されていました。

夕方、ホテルのお部屋にチェックインした後は、お食事をしながら交流会。里親同士、情報や意見の交換は尽きるところがなく、どうやら二次会まで盛り上がったようです。

翌日の朝は、グループワークの発表から。グループによってシートへのまとめ方も異なりますし、発表内容もそれぞれですが、自分の参加したグループの議論を皆に共有し、さらに議論を深めることで、より建設的な意見の交換ができたように思えます。

未来型リーダーとは

続いて、2人目の有識者の講演。NPO法人ファザーリング・ジャパンの代表理事、安藤哲也さんをお招きし、「未来型リーダーとは」をテーマに講演していただきました。安藤さんは2006年にファザーリング・ジャパンを立ち上げて以来、父親の子育て支援に取り組まれている、「イクメン」「イクボス」推進の第一人者。ご自身の体験談を交えて、笑いのある具体的で有意義なお話をしてくださいました。

「パパが意識や働き方を変え、家庭での役割を果たすことで、ママの幸福感が変わる」との主張は、たいへん示唆に富んだお話でした。また、これからは優劣重視の「サル型」のボスではなく、優しさを兼ね備えた「ゴリラ型」のボスが求められるというお話は、参加者がそれぞれの里親会で役割を果たす際にも参考になるお話だったと思います。

今回参加していただいた方々は、各都県市の里親会で今後リーダー的な立場に立つだろう方々で、それぞれの



家庭だけでなく、里親会、里親制度、社会全体を良くしていこうという思いを持っている方々です。その思いを語り合うことで、それぞれがモチベーションを高めあう場としても、このセミナーはたいへん有意義なものになったと思います。

国は施設養護から家庭的養護への転換を図る方針を打ち出していますが、安易に里親の人数を増やせば良いというものではありません。今回のような機会を通して、里親同士の連携や、里親を支援する里親会の強化につなげていただけることを期待しています。

日程: 2020年2月8日（土）～9日（日）
場所: アワーズイン阪急（東京都品川区）
参加者: 20人
主催: 関東甲信越静里親協議会
後援: テレビ朝日福祉文化事業団

参加者へのアンケート(抜粋)

- 沢山の交流と自分の考えや状況を話すこと、聴くことができ、良かったです。地元でできることは実現していきたい。
- 他県の取り組みを知り、できることは無いか考えていきたいと思いました。詳しい人の話が聞けて良かったです。
- 他県・市の話聞き、改めて自分の里親会を見つめられました。
- 今後、ネットワークを張って情報交換をして「絵」にまとめたいと思いました。そうしなければ会の中で言葉だけではなく情報共有できないと思う。
- 様々な地域の里親会のはなしを聞くことで共通の課題はもちろん、「いいとこ取り」をできるような情報を沢山聞けて勉強になりました。
- 男性も今まで以上に家のことに関心を持ち、協力していく必要を感じました。「ゴリラ型」リーダーは良い示唆となりました。
- 「里親としての悩みごと」について発表がありました。悩みとは選択せずに判断と実行を遅らせている時間の長さだと思うので、悩んでいる人ができるだけサロンに足を運んで、多くの里親と関わることで、様々な意見、考えを知り、自分の判断材料を取り入れて悩みの解決してほしい。その時間を作ることが支援につながると感じます。
- ジェンダーギャップをととてもたくさん感じている。日本の問題の大きさを実感した。
- 社会のあり方の問題の深刻さを再認識した。ただ草の根の活動のよって、ゆっくりでも変化していることも実感できた。
- 日頃養育に埋没している里親の迷いや言葉では現せない想いなど、整理ができたような気がする。「よりそう」と一言で言っても何がよりそいか理解している里親はどれほどいるのだろうか。これからの里親は、別分野の研究や意見に真摯に耳を傾け、視野を拡げ、子どもたちがこれから生きていく社会を勉強しなくていけないと思った。

第19回 児童養護施設で生活する 高校生の海外生活体験の旅

シアトルで海外生活を体験！

「高校生の海外生活体験の旅」は、1998年に始まった児童福祉事業のイベントで、今回が19回目となります。約1週間の海外生活を通して異文化を体験し、ホームステイという形でホストファミリーとのコミュニケーションを通じて英会話力を高めることが目的です。

書類選考・面接による審査を実施した結果、今回は男子5人、女子5人の計10人が参加。滞在したのはワシントン州シアトル。世界の航空・宇宙産業の中核をなすボーイング社をはじめ、マイクロソフト、アマゾン、スターバックスなど、世界に名を知られる大企業の誕生の地でもあります。

期待と緊張のホームステイ

参加する10人は成田空港に集合。参加者のほとんどが海外は初めてですが、それぞれが明確な目的を持ってこの旅に参加しているだけあって、期待感が9時間のフライトの疲れを上回ったのか、到着した頃にはこれから出会う人々やアメリカの生活体験に目を輝かせていました。

空港から、まずはお世話になる教会「メープル・バレー・チャーチ」でオリエンテーションを受け、各ホームステイ先のご家族と対面しました。

翌朝、ホストファミリー宅での初めての一夜を過ごして教会に集合した高校生たちは、食事、風呂、習慣など日本との様々な違いに少し驚いたようでした。



盛りだくさんのアクティビティ

現地2日目の午前中は、パイププレイスマーケット（観光名所の市場）のフードバンクでボランティア活動を体験。夕方からは最初の英語の授業で自己紹介を兼ねたゲームをしながら楽しそうに学んでいました。

翌日はボーイング社の広大な飛行機工場を見学し、そのあと2回目の英語の授業。この日は「フォニックス」という発音のルールを学習。ホストファミリーの発音が聞き取れなかったと言っていた高校生にとって、この発音



練習の授業は大変貴重な体験でした。

次の日はシアトル・マリナーズvsタイガースの大リーグ野球観戦。野球場に着くと、あるホストファミリーの家族の娘さんが、高校生の為に輪ゴムで作ったミサンガを10人分プレゼントしてくれました。思いがけない素敵なプレゼントに感動し、その日以来、高校生たちは腕や鞆にそのミサンガをつけていたのが印象的でした。

5日目はそれぞれのホストファミリーと一緒に終日過ごしました。その翌日は、早朝から遠足。「タコマ富士」の愛称で親しまれているワシントン州のシンボル、レーニア山に向かいました。バスで3時間半ほどかかりましたが、高山植物が美しく花を咲かせている自然の中を散策しました。

最終日、3回目の英語の授業を終え、歴史あるワシントン大学も訪れました。



涙のさよならパーティー

夕方、ホストファミリーを招いて「さよならパーティー」を開催。各自、日本から用意してきたホストファミリーへのプレゼントを披露するなどして、お世話に



なった感謝の気持ちを直接伝えました。全員で「東京音頭」を踊りながらの「椅子取りゲーム」は大変盛り上がり、ホストファミリーからも「とても素敵なパーティーだった」との感想をもらいました。

いよいよ帰国日。いろいろな思いがこみ上げ、ホストファミリーとの別れ際に思わず涙してしまう高校生もいました。「もう一度シアトルにきたい!」という声が多く聞かれ、「ホストファミリーから『あなたは新しい家族』と言われた事がとても嬉しかったんだ!」と目を潤ませながら嬉しそうに話してくれた高校生もいました。最初こそみんな遠慮がちに見えましたが、シアトルでの1週間の体験を終えて、自信が表情に溢れていました。



ホームステイという形で初めての米国生活を経験した高校生たち。後押ししてくれた関係者に感謝しながら、この旅で知り合った人々の思いやりや優しさを一生忘れないでほしいと思います。そして、この貴重な体験が今後の人生に大いに役立つことを祈っています。

日程: 2019年7月24日(水)～8月1日(木)
(7泊9日)

場所: アメリカ ワシントン州シアトル市
参加者: 高校生10人(男子5人、女子5人)
東京・神奈川・千葉・埼玉の児童養護施設

主催: テレビ朝日福祉文化事業団

共催: (福) 東京都社会福祉協議会 児童部会

後援: (公財) 原田積善会

参加高校生の感想文(抜粋)

Kくん 16歳

ホームステイ先の家族と仲良くなれて、現地の人と話をして親しくなり、海外に知り合いをつくるのが出来たのはとても嬉しいです。この旅で様々な経験ができ、その全てが自分の英語のレベルやアメリカの文化に対する考え方を見直す良い機会になりました。

Sくん 17歳

現地の人の心の広さに感動しました。英語を上手く話せない見ず知らずの日本人の子どもを受け入れてくれる優しさに感動しました。ネイティブの発音を現地で学ぶことが出来て良かったです。ホストファミリーが「これは Good Bye じゃなく See You だ」と言ってくれたので、絶対にもう一度シアトルにきたいと思いました。

Mさん 17歳

ホストシスターと3人で夕食を作ったりして、家族の一員になれた気がして嬉しかったです。最も印象に残っていることは、いたるところにホームレスがいることです。お金を乞うている様子などを目の当たりにして、とても衝撃を受けました。日本が抱える社会問題も沢山あり、それについて考える必要もあると思いますが、他国の社会問題について深く考えるきっかけとなりました。

Mさん 17歳

自分で積極的にファミリーと協力してご飯を用意するところが印象的でした。女の子はすぐ自立できるようにと育てられているとのこと、ホストシスターの子はよくお手伝いをしていて私も一緒にやりました。家族みんな仲良く協力合っているところが素敵でした。この旅で一番学んだことはチャレンジする大切さです。

Rくん 18歳

ホストファミリーに会ってすぐはとても緊張しましたが、「心

配しないで」と優しい言葉をかけてもらい、会話の内容が理解できるように、ゆっくり話してくれて優しさを感じました。

Sさん 17歳

アメリカ人と日本人の違いを改めて感じました。アメリカは多民族国家で、文化の違う人種が多いため、自己主張することがとても大事だと思いました。また相手の意見を尊重してくれるので、アメリカは立場に関係なく誰もが意見を言うことができるようになりました。

Yくん 18歳

一緒に料理を作ったり、ライブに行ったりして、ホストファミリーの家族と過ごした時間がとても楽しかったです。分からないことがあるとすぐに教えてくれて優しいと思いました。ボーイング社の工場見学は、中が広くて何機もの飛行機があり興奮しました。飛行機を造るところは中々見ることが出来ないもので貴重な体験でした。

Cさん 18歳

ホストファミリーとの会話が難しかったのですが、会話が成立した時に大変感動しました。アメリカでのホームステイを通して言葉の重要性を十分に感じる事が出来ました。他には食事などで文化の違いを感じる事が出来て良い経験になりました。

Aさん 17歳

最初は不安な気持ちでいっぱいでしたが、みんな話しかけてくれて不安がなくなりました。ホストファミリーと過ごしてみて、感謝の気持ちを忘れずに今後も頑張っていきたいと思いました。

Dくん 17歳

家族でのコミュニケーションの多さに驚きました。とても会話が長く、笑いの絶えない家庭で、家族の温かさを感じました。ホストファミリーから言われた一言「あなたは新しい家族」は忘れられません。

第7回 農村ホームステイ体験の旅 in 遠野

児童養護施設の小・中学生に、岩手県・遠野市の農家に滞在して生活や農作業を体験してもらうプロジェクト、7回目の「農村ホームステイ体験の旅」を8月17日から5日間の日程で開催しました。都会の施設での集団生活とは全く異なる環境で、様々な人々や慣習、文化に触れて視野を広げ、積極性・社会性・協調性を養い、自立性を高める一助とするのが目的です。

初めてのホームステイに緊張

応募者の中から書類審査、面接で選ばれたのは小学生3人と中学生7人の計10人。みんな経験したこともない農家での生活ですが、自分からチャレンジしたいという強い意欲をもって応募してきた子どもたち。午前8時に東京駅に集合し、東北新幹線で出発しました。新幹線は初めての子もいて、駅弁を楽しみながらも一様にまだ緊張した面持ち。新花巻駅に着くと、貸切バスに乗り込んで遠野駅へ向かいしました。

駅で停車中の蒸気機関車「SL銀河」を見学してから、「民話のふるさと」遠野ツアーへ。「カップ淵」では「遠野物語」で有名なカップ伝説がどうやって生まれたかを伺い、キュウリを餌にカップ釣りに挑戦したりしました。



夕方は、いよいよホストファミリーとの対面式です。自分がお世話になるのはどの人なのか、子どもたちは一列に向かい合った大人たちをみて不安いっぱいの様子でしたが、名前を呼ばれると元氣よく挨拶し、さっそく大きな荷物をもってファミリーに連れられ、車で家に向かっていきました。

農家で過ごす濃厚な時間

それぞれのホストファミリーごとに、農作業を中心に計画を立ててもらい、各自さまざまな体験をさせてもらいました。

レタス農家に滞在した中学生男子は、毎朝4時に起床。レタスはとても繊細な野菜なので機械化が難しく、広い一面のレタス畑に入り一個一個手作業で収穫します。合鴨による自然農法を行っている農家で過ごした小学生男子は、早朝から合鴨に餌をやり、草むしりのお手伝い



にと汗を流しました。シイタケが大好物の中学生男子は、願ってもいなかったまさかのシイタケ農家にステイ。栽培する菌床が並ぶビニールハウスにこもって朝3時から作業し、早々に出荷する日々。どんどん詳しくなり、訪問時には、作業段階別に並んだ菌床について楽しそうに説明してくれました。

山の上の一軒家のブルーベリー農家に滞在した小学生男子は、ブルーベリーの収穫や肥料撒きに加え、珍しいヤギの世話も体験。中学生女子は、庭の畑で色づいたトマトやナス、ピーマンなどを収穫しては、袋詰めをして直売所に運び込んでいました。



ある小学生男子はふだんから読書が好きで、虫の知識をファミリーに話して、とても感心されました。地元の伝統のお祭りを見学したり、収穫したたくさんの野菜を巧みな包丁さばきで調理したりした小学生男子も。いずれも、訪問すると楽しそうに今日やったことを語ってくれました。

被災地訪問

それぞれ丸2日間の作業を終え、4日目は特別学習の日。2011年3月の東日本大震災の被災地、大槌町（おおつちちょう）を訪れました。

蓬萊島は、大小2つの丘が「ひょうたん」のように見える小島ですが、陸地とつながる300メートルの防波堤、鳥居や灯台が倒壊。3年を経て再興され、復興の象徴となりました。ひょうたん型の屋根の大槌駅にも行きました。津波で線路が流されて長く不通だった区間ですが、8年後の



今年3月、ようやく三陸鉄道として再開。流失した駅舎も建て直しました。ちょうど三陸鉄道の短い列車がホームに入ってきて、みんな歓声をあげていました。

涙のお別れ

ホストファミリーのみなさん全員との「さよならパーティー」では、一人ずつ、ファミリーへのお礼を綴った「感謝の手紙」を壇上で発表しました。子どももファミリーも明日のお別れを思っしんみり。最後にSMAPの「世界に一つだけの花」を合唱、温かく、楽しい時間を共有した最後の夜となりました。

いよいよ最終日。車で送られて遠野駅に集まり、列車を待つ間、ファミリーとずっと話し込んでいる子もいました。列車が到着してみんな名残惜しそうに乗り込み、駅のホームから懸命に手を振り目頭をおさえるファミリーの皆さんに見送られ、遠野を後にしました。

遠野でお世話になったホストファミリーの皆様、現地アレンジをお願いした認定NPO法人 遠野山・里・暮らしネットワークの皆様、協力していただいた全ての皆様にご場を借りて深くお礼申し上げます。



日 程: 2019年8月17日(土)～21日(水) (4泊5日)
場 所: 遠野市(岩手県)
参加者: 小学校高学年3人、中学生7人 (男子8人、女子2人) 東京・神奈川・千葉・埼玉の児童養護施設
主 催: テレビ朝日福祉文化事業団
共 催: (福) 東京都社会福祉協議会 児童部会
後 援: (公財) 原田積善会
協 力: (特非) 遠野山・里・暮らしネットワーク

参加児童の感想文(抜粋)

小学6年生男子

ジャガイモとブルーベリーを収穫したり、玉ねぎを植えたりしました。最初に目標で「なくす」と言っていたなまけ心は、少しなくなったと思います。農業や被災地の方の話を聞くと自分の今の生活に比べて大変なことが多く、これから自分の生活は今までより少し頑張れることが増えると思います。

中学3年生女子

毎日思い出がどんどん積み重なっていった。ホストファミリーの方々と一緒に笑い合い、語り合い、はしゃぎ合い、親子のような、友だちのような感覚になる楽しい5日間だった。特別な、かけがいのない時間だった。

中学1年生男子

毎日朝夕、羊とヤギを小屋から出して散歩をさせました。小屋のそうじが楽しかったです。暑い屋ではなく朝や夕方に仕事をしましたが、どんなお仕事もきつけれど楽しかったです。何か目標を達成できた気がします。またお世話になった家に行きたいです。

中学2年生男子

育てていた野菜は枝豆、トウガラシ、ミョウガ、ズッキーニ、トマトなどでしたが、一番おいしかったのはトウモロコシです。ふだん食べている野菜も自分の手で作ればもっとおいしく感じるんだなと思いました。目標だった幼虫が苦手なことは克服できませんでした。遠野での思い出は楽しいことばかりです。

小学6年生男子

一輪車でまきを運んで積んだり、なえを植えて水まきをしたりし、農作業でたくさんのチャレンジをしました。毎朝、汗びっしょりになるぐらいやっていた草刈りで農作業の大変さも学びました。イヤでもあきらめないということをステイ先の方から教わったので、何ごとにもチャンレジして、これからも夢に向かってがんばりたいです。

中学2年生男子

最初に感じたのは「空気が気持ちいい」ということでした。

大好きなシイタケの仕事ができたのでとても楽しかったです。朝3時起きと聞いてめちゃくちゃ早いと思っていただけ、シイタケは一晩でもものすごく大きくなっていて、一時間で一ミリ大きくなると聞いてビックリしました。

小学6年生男子

朝6時から一緒に草刈りをしましたが、僕がいつも寝ているときに毎日働いていると知り、すごいなと思いました。水やりは、ただ水をあげるのではなく、育つように願いを込めながらあげました。畑の仕事は大切なことだからみんなにも体験してほしいです。

中学2年生男子

一番楽しかったのはレタスの収穫です。ファミリーの方が教えてくれたので軽くズバツと切れるようになりました。さよならパーティーでファミリーさんが話しているとき、思わず涙を流してしまいましたが、ファミリーさんには見せないようにしました。最高にいい思い出になりました。

中学2年生男子

ステイ先のご家族がとても優しくしてくださり、とても安心しました。快く受け入れてくれたことに感謝したいです。宿をしていたのでお客さんとも仲良くなりました。2日目は朝ごはん、昼ごはんを作らせてもらい、その後は灯籠流しをしました。そのとき映画撮影を手伝いましたが、とても貴重で、もう一生できない体験だと思います。とても学べたことがあったし、とても楽しかったです。

中学2年生女子

思い出がいっぱいできて、行ってよかったです。初めて会ったときから優しくしてくれました。畑仕事はあまりやったことがないので大変でしたが、分からないことをていねいに教えてもらってうれしかったです。被災地を初めて訪問し、知らなかったことがいっぱい、このようなことが起きていたんだと改めて感じました。

第8回 子どもキラット! 楽演祭

児童養護施設で暮らしている子どもたちによる発表会、「子どもキラット! 楽演祭」を、11月17日(日)、東京・虎ノ門のニッショーホールで開催しました。通算8回目となった今年は、東京都、神奈川県、埼玉県の計12の施設が12演目を披露しました。見学者を含めた参加者は約500人。3時間半にわたって次々と繰り出される子どもたちの発表を楽しみました。

このイベントは、児童養護施設の指導者らから、子どもたちの日ごろの文化活動の目標となる発表の場がほしいという声があったのを受けて、2012年、音響、照明、進行やゲスト出演などを自分たちで組み立てられるテレビ局らしい特色を生かし、コンサートホールで開催をスタートしました。演目は毎年、合唱、創作ダンス、ハンドベルなどの楽器演奏、日本舞踊、お笑いなど多岐にわたります。幼児から高校生まで、子どもたちはこの日のステージに向けて、施設によっては先生や卒園生も一緒になって夏休みも欠かさずに練習を重ねるなど熱心に取り組んでいます。

年々レベルも上がってきている 年に一度の大舞台

司会はテレビ朝日の住田紗里アナウンサーと、「高校生の海外生活体験の旅2019」に参加した児童養護施設の高校2年生男女のコンビ。舞台上でスポットライトを浴びるのは初めてという2人ですが、あまり緊張した様子もみせず、本番に臨みました。



初めての司会

トップバッターは、八丈島太鼓。4台の大きな太鼓を横向きに台座にのせ、両側から2人で勢いよく打ち込みます。息を揃えて次々とリズムを



八丈島太鼓

と、舞台いっぱいの出演者による華やかな演目。そして、特別ゲスト「にゃんこスター」が登場して、会場を沸かせ前半を締めくくりました。

お笑いにブレイクダンスも

さて、後半はきれいなハンドベルからスタート。難曲ばかりでしたが、きらきらする音色とメロディーを会場に響かせました。続いて激しくノリのよいヒップホップダンス。そしてお笑いです。コンビとトリオの二組で、子どもたちの爆笑をさらいました。前回「キラット!」デビューしたこのお笑いですが、すでに施設内で単独ライブをやるほどの人気だそう。今後は外でのライブ活動も



変化させていく力強い演奏で一気に客席を圧倒させ、迫力ある幕開けとなりました。続いてダンス。「パプリカ」などの有名曲やヒップホップに乗せて、半年間練習してきたという小学生中心の6人のユニットが、曲ごとにメンバーを入れ替えながら楽しそうに踊ってくれました。次は一転、美しい音色のトーンチャイム。子どもたちの希望で発足したクラブ活動で、今回はだれもが聞き覚えのあるディズニー映画からの楽曲。音を合わせるのが難しいトーンチャイムですが、楽譜がまだ読めずみんなで教えたという幼少の子たちも一緒に、全員で綺麗なメロディーをつくりあげていたのが印象的でした。

このあと、高校3年生女子によるダンス、小中学生28人によるコーラス、総勢43人による創作舞踊、日本舞踊



創作舞踊



日本舞踊



ダンス

目指すと意欲を燃やしていましたが、インタビューで「なぜお笑いをやろうと思ったの?」と聞かれ、「笑っている間は幸せになるので、笑いを届けてみんなに幸せになってもらいたいと思ったから」としっかり答えていました。

続いては、舞台の背景いっぱいの映像も使った創作ダンス。途中で卒園生男子2人が披露したヘッドスピンなど難しい技を駆使したアクロバティックなブレイクダンスには、思わず「すごい」という声が上がりました。発表のラストは、幼児、小学生から職員まで42人で歌う合唱。指揮のユニークな先生のもとで楽しそうに歌い、会場を元気にしてくれました。

そしてフィナーレは、参加者全員で「幸せなら手をたたこう」を合唱。住田アナの誘導で子どもたちが一斉に舞台に。全員大きな声で歌い終わると、大きな拍手に包まれま



お笑い



ブレイクダンス



合唱

した。そのまま記念写真を撮影し、今年も華やかに幕を閉じました。

当事業団としては、このイベントが、いろいろな年齢の施設の子どもたちが、一つの目標に向かい、何カ月もかけて練習や創作に取り組み、そのゴールとして大きな晴れ舞台に立って達成感や一体感を感じてもらう機会になればと考えています。他の施設の子どもたちの様子や発表をみることもまた、よい刺激になることでしょう。

共催の東京都社会福祉協議会児童部会、後援・助成いただいた原田積善会、後援のテレビ朝日、施設関係者にこの場を借りて感謝いたします。

日程: 2019年11月17日(日)
場所: ニッショーホール(東京都港区)
主催: テレビ朝日福祉文化事業団
共催: (福) 東京都社会福祉協議会 児童部会
後援: (公財) 原田積善会・(株) テレビ朝日

参加施設へのアンケート(抜粋)

- 子どもたちの練習への取り組み姿勢や当日の生き生きとした様子、緊張しながらも演奏やインタビューを行う姿を見て、楽演祭に参加した事で大きく成長し、貴重な経験を得たことを大変嬉しく思います。
- 毎年、豪華な舞台をありがとうございます。子どもたちもこの舞台を通して大きな自信になっています。
- 各施設一生懸命練習してきた成果を発揮することができて、とても素晴らしかったです。どの施設の子どもたちもキラキラした目で、歌ったり踊ったりしており、その姿に感動しました。
- 子どもたちにとって、一年に一回この大きな舞台に立てることを一つの目標とし、日々のお稽古に励んでいます。今後ぜひ参加させていただきたいです。
- 色々な施設が一堂に集まり、大きな舞台で発表する機会は、子どもたちの思い出や良い体験になっていると感じます。
- 準備の段階で色々な事を考える機会にもなっています。発表内容について、時間内におさめるには衣装はどうする、メンバーの割り振り、何をやるか、備品は何をお願いするか等々。子どもたちと一緒に考えるので、良い機会を与えていただいているなと感じます。
- 「子どもキラット! 楽演祭」は本格的な照明や音響、大人数の前で発表できる貴重な舞台です。応援に来てくれた職員や児童にも褒めてもらえ、参加した児童も照れくさそうにいました。
- とてもカッコイイ照明をありがとうございました。おかげさまで、のびのびと踊ることができました。子どもたちは園に帰った後も「楽しかった!」と話していました。

児童福祉施設職員のための ワークショップ

子どもの気持ちに寄り添い、関心を持って耳を傾け共感することで子どもの行動の背景にある感情を理解し、問題行動に対応する方法を学ぶ1泊2日の児童福祉施設職員のためのワークショップが開催されました。

今回も1970年代から児童虐待、ネグレクトの問題に取り組む、また日米の子どもと家族の治療に関わってこられた心理学博士の田中万里子先生（サンフランシスコ州立大学名誉教授）を講師にお迎えしました。講義と演習、



さらに事前に参加者から提出してもらった事例についてのケーススタディと講師からのコメント。複雑で深刻になりつつある子どもたちの問題に対して、その原因をどう理解し、どうかかわっていけばいいのかを学ぶ二日間でした。

日 程: 2019年10月8日(火)～9日(水)
場 所: パレスホテル立川(東京都立川市)
参加者: 全国の社会福祉施設職員20人
主 催: テレビ朝日福祉文化事業団
事務局: (特非) エンジェルサポートセンター

参加者からの感想(抜粋)

- 施設職員として子どもとのかかわりにおいて忘れてしまいがちなことを改めて重要だと振り返る機会になりました。
- なかなか知り合うことのできない遠方の方と話をすることができた。
- 若い職員にも参加してほしいと思うワークショップでした。
- このような研修を多く受講することができたら、また施設でもこのレベルの研修を全員で受けることができたらいいなと思いました。
- 実際の事例は自分の中でも目に覚えのある経験が多かったので、頂いた助言を実際の業務でも活かしたいと思いました。

第65回 関東甲信越静 里親協議会 新潟大会

日 程: 2019年7月21日(日)
場 所: 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター(新潟県新潟市)
主 催: (公財) 全国里親会・
関東甲信越静里親協議会・
新潟県里親会
後 援: テレビ朝日福祉文化事業団 ほか

こどもの国 お正月行事 「ジャンボカルタとり大会」と「どんど焼き」

こどもの国の新年の恒例行事、「ジャンボカルタとり大会」と「どんど焼き」が今年も大勢の人々を集め開催されました。両行事ともお天気に恵まれ、青空のもと中央広場で行われました。

伝統的な正月行事の一つ「どんど焼き」では、参加者が持ち寄った松飾り・書初め・願い事が書かれた短冊を付けた笹の木などを櫓にくべて、厄払いや無病息災、諸願成就を願いました。テレビ朝日福祉文化事業団は、どんど焼きに参加する子どもたち先着500名に焼き芋、先着300名にジャガイモをプレゼントしました。また、残り火を使用した焼きマシュマロ体験も実施し大好評を得ています。

こどもの国が開園以来、約50年続いているふたつのイベントは、新年の風物詩となっています。

日 程: 【ジャンボカルタとり大会】
2020年1月2日(木)、3日(金)
【どんど焼き】
2020年1月12日(日)
場 所: こどもの国(神奈川県横浜市)
主 催: (福) こどもの国協会
後 援: テレビ朝日福祉文化事業団



「憩いの家」 資金バザー

日 程: 2019年12月18日(水)
～24日(火)
場 所: 日本橋高島屋(東京都中央区)
主 催: (福) 青少年と共に歩む会
後 援: テレビ朝日福祉文化事業団 ほか

母子のためのテレビ朝日 見学体験ツアー2019

「母子のためのテレビ朝日見学体験ツアー」は、住所を公表しない母子生活支援施設で暮らすお母さんと子どもをテレビ朝日に招待し、外出して気分転換を図ってもらうことを目的にしています。今年も5、6月の日曜日3日間、33組92人をテレビ朝日に招待しました。

テレビの仕事がよくわかる見学コース

見学コースは、「ANNニュース」生放送見学（ガラス越し）→社内食堂での昼食（食べ放題）→「サンデーステーション」スタジオセットで出演アナウンサーとの記念写真撮影→コーポレートデザインセンターで美術セットの模型や小道具見学→ウェザーセンター・ニュースCG室→7階屋上テラス・テレ朝稲荷散策→アトリウム（番組宣伝コーナー、テレ朝ショップ）自由観覧→「サンデーステーション」リハーサル見学という順で行いました。

圧倒的な人気イベントは、「サンデーステーション」スタジオセットでの板倉朋希アナウンサー、森川夕貴アナウンサーとの記念撮影。

「現役アナウンサーとの記念撮影はドキドキした、一生の思い出」「スタジオ見学でただけでも感激なのに、板倉アナウンサー、森川アナウンサーと写真まで取っていただいて、本当に良い記念になります」「テレビで見ているアナウンサーに会えて嬉しかった！」「アナウンサー美人だった」「アナウンサーとお話できて嬉しかった」など、嬉しい声が届きました。



大人気の食べ放題！

社内食堂で食べ放題！こちらも圧倒的人気です。

「ラーメンや春巻きがとても美味しかった」「プリンが美味しかったです！」「ごはんいっぱい食べたから幸せだった！」「見晴らしの良い食堂でのランチタイムもゆっくり時間があり、気持ち良い空の下でのんびり過ごせました」との嬉しい感想が届きました。



屋上の「テレ朝稲荷」も人気がありみんなで参拝。自由時間には、アトリウムのクレヨンしんちゃんの公開映画「新婚旅行ハリケーン」にちなんだクイズ式のスタンプラリー「おたからり〜」に多くの子がチャレンジしました。

託児所も設置

5月19日は託児所付きで開催。このツアーでは本社の見学を3歳以上に限定しているため、3歳未満の幼児を持つお母さんが参加できるよう、初日のみ託児所を設けました。この日は預けた幼児3人を含め未就学児が11人、小学生5人、中学生1人と小さい子が多いのが特徴でした。青空に映える東京タワーと広々としたテラスで気持ちよさそうに仲良く一緒に遊ぶ初めて出会った幼な子たち。どの子にもやさしい笑顔があふれ、微笑ましい爽やかな一日となりました。

このツアーは過去6年間で28回開催し469人を招待しました。希望者多数のため、一昨年から一日の招待者数を倍の30人に増やしています。

「サンデーステーション」や食堂のスタッフ、警備の方や、総務はじめテレビ朝日の関係各署に感謝しつつ、今後



も母子生活支援施設で生活する方々に喜んでいただけるよう、この事業を継続していきたいと思っています。ご後援、ご協力いただいた関東ブロック母子生活支援施設協議会、関係者の皆さまにお礼申し上げます。



日 程: 2019年5月19日(日)、26日(日)、6月2日(日)
場 所: テレビ朝日(東京都港区)
参加者: 母子33組92人
(大人48人、未就学児童19人、小学生16人、中学生9人)
東京・神奈川・千葉・埼玉の22施設
主 催: テレビ朝日福祉文化事業団
後 援: 関東ブロック母子生活支援施設協議会

参加者からの 感謝のお手紙の一部



参加者からの感想文(抜粋)

東京都 Hさん、小2男子、5歳男子

生放送を見せてもらえたこと、スタジオでアナウンサーと写真を撮って凄く楽しかった！現役アナウンサーさんとの記念撮影はドキドキしたけれど一生の思い出です！

社内食堂でごはんいっぱい食べさせてもらって幸せだった！美味しい昼食を好きなだけ食べ放題というのは、普段そんなゴージャスなことできないシングルママには夢のようです。

千葉県 Tさん、1歳男子

リハーサル見学できてよかった。普段見られない裏のところができて、1つのニュースにいろんな人がかかわっているんだなと思いました。案内してくれた方が丁寧に説明してくれて、わかりやすかったです。

東京都 Iさん、4歳女子、2歳女子

テレビを見ているだけでは、ニュースの制作経過を想像しづらかったのですが、実際見ると沢山の方々が制作に携わっていることを知ることができました。制作現場を見ることができてよかった。子どもに大人が仕事をしている姿を見ることができてよかったです。

横浜市 Oさん、小5女子、小3男子

私一人で子どもを連れて、電車に乗って出かけることはあまりしないので、このような機会を頂き、ありがたく思います。子どもは「東京だー!!」と喜んでいましたし、普通には入れないテレビ局に入れる特別感に感じて「招待ってすごいね!!」と

とても感動していました。好きなごはんが食べられて、デザートまで!!と子どもが喜んでいました。ステキな一日をありがとうございました。

船橋市 母子生活支援施設職員

美術など普段テレビで観ているだけではわからない裏側を見られてよかった。ニュースがどのような流れで流されているのかを知るとテレビの見方も立体的になる。小さい子を持つ母親が参加していたので、保育があってよかった。

川崎市 母子生活支援施設職員

何もかもびっくりするような経験で、子ども、お母様もいとお顔で参加しております。至れりつくせりのご配慮、本当にありがとうございます。身近なテレビ、顔なじみのアナウンサーと同じ空間にいられることが不思議で、とにかくこの企画、テレビ朝日さんに感謝です。

市川市 母子生活支援施設職員

アナウンサーの方が優しく接してくださり、一緒に写真を撮れ、モニターに映していただけたのが、子どもがとても喜んでいました。警備さんが一緒に回ってくださったのが安心でした。CGの仕組みの説明が聞けて面白かったです。

横浜市 母子生活施設支援員

招待いただいた世帯皆が、帰り道に今回の経験を母と子でとてもうれしそうに話す姿がありました。また、子どもたちも学校で早々に話してきた様子でとても良い経験になりました。

五感で楽しむ音楽会 2019 ～LIVE TOGETHER CONCERT～

10月26日(土)、品川区立総合区民会館「きゅりあん」8階大ホールにて、障がいのある方もない方も楽しめる入場無料のクラシックコンサート「五感で楽しむ音楽会 2019 ～LIVE TOGETHER CONCERT～」を開催しました。

障がいのある方々にも会場で音楽を楽しんでいただけるよう、盲導犬の入場のほか、手話通訳、字幕、抱っこスピーカーやヒアリングループの設置など様々な鑑賞サポートをご用意しました。会場内誘導は、帝京高等学校JRC部の生徒さんがボランティアとしてご協力してくれました。当日は秋晴れの好日となり、大ホールがほぼ満席となる約900人のお客様にご来場いただきました。

第1部 プロの心に響くコンサート

第1部は、視覚障がいを持ちながらも世界的に活躍するヴァイオリニストの川畠成道さん、18歳の異才ピアニスト紀平凱成さんの演奏を堪能し、心に響くコンサートとなりました。

紀平さんは、感覚過敏と闘いながら今年デビューしたばかりの新進気鋭のピアニストです。それだけに紀平さんの演奏を期待して来られているお客様も多く、「やっと聴くことができた」「感動した」との感想がありました。紀平さん作曲のオリジナル曲も演奏し、「神様からの贈り物」と感嘆の声を数多くいただきました。

昨年に続き今年も出演していただいた川畠さんの繊細で厚みのあるヴァイオリンの音色には、「落涙した」「崇高な音に魅せられた」と感激の声を頂戴しました。アンコールとして演奏されたディニク作曲「ひばり」では、「ひばりのさえずりと空を飛んでいる様子がわかった」「圧倒的な音楽性とテクニックに異空間の世界を堪能した」と、大絶賛される方が数多くいらっしゃいました。



盲導犬と一緒に



紀平凱成さん



川畠成道さん

第2部 五感で楽しむブラスアンサンブル

第2部は、視覚や聴覚に障がいを持つ方も音楽を楽しめるような工夫を凝らした「五感で楽しむブラスアンサンブル」。東京藝術大学出身のプロオーケストラ奏者を主体として結成されたブラスアンサンブル・ゼロによる演奏と映像とが共演するステージです。

オープニング曲は、会場全体を活用し客席に下りた演奏者が一人ずつ音を出す「音のリレー」。目を閉じていても、聴覚に障がいがある方でも、演奏者の位置と音の振動、ホールの広さなどを体感していただくことができました。

続いて、東京藝術大学COI拠点の開発した「OtOmi(オトミ)」というアプリを利用し、演奏される楽器の音を映像化して大型スクリーンに映し出しました。音の高低や大きさによって画像が生き物のように変化します。ろう学校の児童にステージに上がっていただき、実際にブランデンブルグ協奏曲「第3番」を演奏者の間近で聴いていただきました。音の振動も感じられ、まさに「五感で楽しむ」演奏となりました。



演奏と映像の共演

4曲目では、聴覚障がいのある11歳のバレリーナ菊池海麗さんに、ブラスアンサンブル・ゼロの生演奏に合わせて踊っていただきました。この日のために練習を積んできた菊池さんの見事なバレエに、「素晴らしい」「感動した」「優雅だった」との感想を頂戴しました。

最後に、第1部に出演した川畠成道さん、紀平凱成さんにも加わっていただき、全員で「花は咲く」を演奏、会場のお客様と一緒に合唱しました。歌いながら涙しているお



菊池海麗さん

客様もいらっしゃいました。音楽を鑑賞するだけでなく、会場みんなで作り上げるその光景は「五感で楽しむ音楽会」に相応しいものでした。曲が終わると、大きな拍手が鳴り響いていました。

ロビー展示も充実

ロビーでは、「五感で楽しむデバイス展」と題し、最新技術を利用して五感で音や映像を楽しむことができるデバイスをご紹介します。

昨年に引き続き、音と一緒に振動を伝える抱っこスピーカー「ハグミー」の体験ブースを設け、コンサート中の貸し出しも行いました。聴覚障がいの方から「抱っこスピーカーを利用することで、独奏で一つ一つの楽器の面白さを味わえた」との感想がありました。コンサート第2部でも使用した東京藝術大学COI拠点が開発したアプリ「OtOmi(オトミ)」と、AR技術を使って動物の鳴き声で遊ぶアプリ「この音なあに？」を実際に触れていただくブースも設けました。また、聴覚障がい子どもたちに向けた音楽教育デバイス「Palm Beat(パームビート)」をご紹介します。

さらに、アートユニットMATHRAXの製作した「いしのこえ」を展示。机の上に並んだ石に触れることで音が奏でられる作品に触れたお客様からは、「なぜ音が出るのか不思議」「新感覚な驚き」といった感想を多く頂戴しました。



五感で楽しむデバイス

ご来場の皆さまの声(抜粋)

- ★とても意味と意義のあるユニバーサルを実現した素晴らしいコンサートでした。
- ★五感が研ぎ澄まされた感覚です。ぜひとも今後の情報を知りたいと思います。
- ★障がいのある人も音楽を楽しめてよかった。
- ★はじめてだっこそ型スピーカを利用したが音楽だけでは不十分な面を補助してくれる面はすごくよかった。
- ★無料でここまで良質な音楽を聴ける貴重な機会でもとても満足でした。障がいのある方も小さなお子様も一緒に楽しめる素敵な企画をありがとうございました。
- ★子どもが聴覚障がいのため、視覚的に音楽を楽しむことができたようでよかったと思います。
- ★障がい者も自由に芸術を楽しめるすばらしい企画。ありがとうございました。
- ★人工内耳の手術をして1年になります。15年ぶりぐらいで生の演奏を聴けて楽しかったです。

テレビ朝日福祉文化事業団は、障がい者福祉のため、また社会福祉法人の地域社会への貢献が望まれる今、未来へ向けての新しい一歩となるよう、今後もこのような取り組みを継続していきたいと思います。出演者の方々ははじめ、ご賛同くださいました協賛各社、ご協力いただきました関係各位、そして当日ご来場のお客様に深く感謝申し上げます。



いしのこえ

- 日 程:** 2019年10月26日(土)
場 所: 品川区立総合区民会館「きゅりあん」8階大ホール
主 催: テレビ朝日福祉文化事業団
共 催: 東京六本木ライオンズクラブ
後 援: 品川区・(福)東京都社会福祉協議会・(福)品川区社会福祉協議会・(株)テレビ朝日
協 力: 東京藝術大学COI拠点・YURI Ballet School・帝京高等学校JRC部
特別協賛: (株)竹中工務店・ダイダグン(株)
協 賛: ALSOK東京(株)・(株)伊佐梅・(株)大塚商会・(株)関電工・(株)コマデン・(株)シービーエス・(株)台東サービス・(株)テルミック・(株)東京美術・富士ゼロックス(株)・富士通(株)・(株)ミヤギ・横浜エレベータ(株)東京支店

- ★案内係がいたるところにあり、細かくサポートしている様子に感動した。
- ★川畠さんの素晴らしい音色に感激しました。思わず涙が出ました。
- ★紀平さんがすごい。音のピュアさに涙が出てきた。こんな経験初めて。
- ★非常に素晴らしい催しだったと思います。初めてでしたがこれからも幅広く色々な場所機会での開催があればと思います。
- ★素晴らしい演奏をありがとうございました。福島から参りましたが、期待してた以上のすてきな演奏にすっかり魅了されております。
- ★このようなコンサートは初めてでとても楽しく新鮮に感じました。映像付きのコンサートなんてとても面白かったです。
- ★AIやデジタルのテクノロジーを使ってどんどんインクルーシブなエンターテインメントや場所を作ってください。
- ★障がいのある方のためにもそうでない者にとっても今後も長くつづけていただけることを願います。

天皇杯 第47回 日本車いすバスケットボール選手権大会

新天皇即位後、初めてとなる「天皇杯 第47回日本車いすバスケットボール選手権大会」が、5月10日から3日間の日程で開催され、全国から勝ち上がった強豪8チームが、日本の頂点を目指して激戦を繰り広げました。

2018年に天皇杯が下賜された本大会は、全国の選手が目標とする国内最高峰の選手権です。注目度が高まっているパラスポーツですが、特に、車いすバスケットボールは競技用車いすを巧みに操作して選手が激しくぶつかり合うため、動きやパスのスピード感、攻防の熾烈さからも人気が高く、花形競技の一つです。さらにこの天皇杯の出場チームには日本代表を経験している選手も数多く、ハイレベルのプレーが続出します。使用コート、リングの高さなどは一般のバスケットボールとほぼ同じですが、障がいのレベルに応じて各人の持ち点があり、コートに出ている5人の合計持ち点が定められています。2017年から女子選手、2018年からは健常者が選手登録可能となりましたが、この持ち点制に従うことで障がいの有無、軽重、男女を問わず出場できるようになっています。

3日間のトーナメント戦を制し、令和初の天皇杯という栄光に輝いたのは、「宮城MAX」(東北ブロック)。日本代表のエース・藤本怜央選手らがよく引っ張って1回戦、準決勝を勝ち進み、最終日の決勝へ。藤本選手に加え、土子大輔選手、女子日本代表の藤井郁美選手らも得点を重ね、初優勝をかけて挑んだ「埼玉ライオンズ」(関東ブロック)を抑え込み、71対35で下しました。



Photo by JWBF/フォトサービス・ワン

今大会の観客は延べ約11,000人に及び、障がい乗り越え、また障がいの有無、程度も超えて、チームの勝利に向けて一丸となってプレーする選手の皆さんの姿は、多くの人々に勇気と感動を与えたばかりか、試合内容のレベルの高さは東京パラリンピックへ向けて一層の期待を高めたことと確信します。参加したすべての選手の皆さんに感謝するとともに、今大会の成功に注力された主催、後援、協賛、サポーター各社、ボランティアスタッフの皆さんにもお礼申し上げます。

- 日 程:** 2019年5月10日(金)～12日(日)
- 場 所:** 武蔵野の森総合スポーツプラザ (東京都調布市)
- 主 催:** (一社)日本車いすバスケットボール連盟 ほか
- 共 催:** スポーツ庁・東京都・テレビ朝日福祉文化事業団 ほか



Photo by JWBF/フォトサービス・ワン



Photo by JWBF/フォトサービス・ワン

第43回 ハンディスキー全国親善大会(長野県軽井沢大会)

怪我や病気などで肢体に障害がある人たちがスキーの技術を披露し合うイベント、第43回ハンディスキー全国親善大会が、軽井沢プリンスホテルスキー場で1月17日(金)から2日間の日程で開催されました。この大会は、タイムなどの成績を競い合うだけでなく、障がい乗り越えてスキーを楽しむ全国の仲間が集い、交流を深めることも目的としています。テレビ朝日福祉文化事業団は、1978年に常陸宮両陛下ご臨席のもとで開催された第1回(長野・斑鳩高原)から共催してきました。

レースは上級・中級・ゲストメーション(健常参加者)に分かれて、日本全国から集まった約40人の選手が熱戦を繰り広げました。勝敗はタイムの速い遅いではなく、同じコースを2回滑り、2回のタイム差が一番少ない選手が優勝となるチャレンジタイムレース。スタートしてゴールするまで、自分のリズムを守って2本滑り切ることが重要となります。



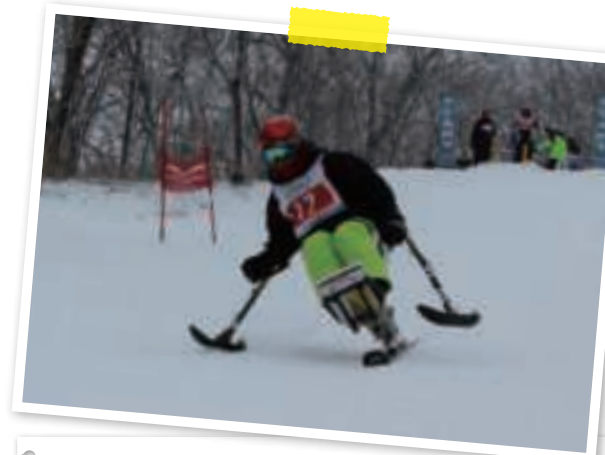
試合結果

- | | |
|--|---|
| 上級 優勝
井上真司
(長野県)
タイム差 0秒01 | 中級 優勝
垣内イト子
(埼玉県)
タイム差 0秒64 |
| ゲストメーション
尾崎栄一
(埼玉県)
タイム差 0秒20 | ゲストメーション(ジュニア)
阿部萌乃和
(新潟県)
タイム差 0秒85 |



選手たちはまずインスペクションを行い、その後10時から中級クラスから順に競技を開始します。滑走するコースグレンデコンディションも、雪は十分にあり視界も良好、最高のスキーコンディションとなりました。赤と青の旗門が交互にセットされた全長約400m、標高差85m、最大斜度20°、平均斜度11°の平行コースを、第1滑走の選手を皮切りに次々と選手がスタートしていきました。立位・チェアスキーなど、それぞれの状況に応じて用具や滑り方を工夫して思いきり風を切って旗門を通過し、滑走。競技スキーとほぼ同等の大回転コースを、自らのハンディをものともせず果敢にレースに挑む姿は、競技役員を務めたスキー場の関係者やゲストメーションに参加した選手たちにも勇気と感動を与えてくれました。

大会終了後は表彰式と交流会が行われ、交流会では、ほぼ1年ぶりに遭う仲間たちと大いに盛り上がり、会場には笑顔が溢れていました。今回、ご参加いただいた選手の皆さんはじめ、長い間準備にあたられた日本身体障害者スキー協会、大会開催にご尽力いただいた全ての関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



- 日 程:** 2020年1月17日(金)～18日(土)
- 場 所:** 軽井沢プリンスホテルスキー場 (長野県軽井沢町)
- 主 催:** (一社)日本身体障害者スキー協会
- 共 催:** テレビ朝日福祉文化事業団
- 後 援:** 長野県・上田市 ほか

NAKANO街中まるごと美術館! 10周年 アール・ブリュット — 人の無限の創造力を探 求する2020 —

東京・中野の4つの大型商店街をはじめ、地域一帯をオープンな美術館に見立てて、近年、世界的に注目されている「アール・ブリュット」と呼ばれる優れた芸術作品を紹介するイベントが、1月25日から3月1日にかけて開催されました。

「アール・ブリュット (ART BRUT)」とは、専門的な美術教育を受けていない人々が独自の方法や発想で生み出す芸術作品のことで、ARTは「芸術」、BRUTは「生のまま／加工されていない」という意味のフランス語です。既存の手法や従来の美術の価値観にこだわらない、極めて革新的・独創的な美的感覚をもつのが特徴で、作家には障がいがある作り手、美術とは全く離れた位置にある市井の作り手も含まれます。

当事業団は、障がい者福祉事業の一環として19年に協力を開始。今回は社会福祉法人 愛成会や各商店街とともに、主催する実行委員会の一員として取り組みました。

巨大パナーによる「空中ギャラリー」

JR中央・総武線と地下鉄東西線が乗り入れる中野駅は毎日16万人が乗降する都内でも中核の駅。北側改札口の入り口にまずはイベントの大きな横断幕が目につきます。そこから北に一直線に伸びる中野サンモール商店街は一日平均5万人が行き交うメインストリート。アーケードに入ると、高い天井から縦1.8m、横3mの大きな作品のパナーが吊るされた「空中ギャラリー」が展開されていて、裏表で計14作品が、多くの買い物客や通行人の目を楽しませていました。



中野駅



空中ギャラリー

「サブカルの聖地」を彩る個性的な作品



中野ブロードウェイ

そのまま続く中野ブロードウェイ商店街は、元々1966年に完成した複合ビルですが、現在はアニメや漫画などサブカルチャーの聖地として国内外にも知られる巨大ショッピングセンター。建物内の北、中央、南と全部で3か所ある階段の地下から4階までと踊り場の壁面を使う「階段ギャラリー」と呼ばれるスペースに、約30点の作品ポスター、さらに作家紹介や過去10年の展示記録などが展示されました。

この2つの商店街を通した長さは約500メートル。平日だけでなく、特に休日はごった返していました。

銀行や中野マルイでも

さらに、駅周辺の三井住友信託銀行中野支店では、このイベントの会期中、前半は山根暁さん、後半は勝部翔太さんの驚異のミニチュア作品を展示しました。

駅の南口にまわると、中野南口駅前商店街では、「看板ギャラリー」を展開。今回の25人のすべての出品作家の作品パナーがアーケードを飾りました。また中野マルイでは、2階の小展示スペースと屋外のスペースを利用し



中野レンガ坂



山根暁さんの作品

た「隠れ家ギャラリー」を設置。約15点の作品パナーを展示しました。

さらに今回から、南口のロータリーから西に線路と平行して伸びる中野レンガ坂商店会も参加。「坂道ギャラリー」と題し、8人の作家について、作家自身のポートレートや制作風景の写真パナーを設置しました。

ギャラリーでの展覧会

このほかに期間限定で2か所のギャラリーで「アール・ブリュット展『きおくのゆくえ』」と題した展覧会も開催しました。この展示では、作家の作品にしばしば表現される「記憶」に焦点をあてて、計15人の作家の実物作品を紹介しました。

最初が西武新宿線野方駅そばの「野方WIZ GALLERY」(2月2日～8日)。150色の色鉛筆を自在に使った鮮やかな色彩とどこか原始的なモチーフが特徴の阿山隆之さん、粘土による独特の造形でヴェネチア・ビエンナーレに



澤田真一さんの作品



渡邊義紘さんの作品

も招聘された澤田真一さん、1枚のクヌギの葉から魔法のようにさまざまな動物を指先で作り出す「折り葉」作家の渡邊義紘さん…。訪れた人からは「初めてアール・ブリュットの作品をみたが、根源的な芸術に通じるものがあり、大変興味深く見た」などと驚きの声が聞かれました。

また、今回はこのギャラリーのオープニングに合わせて、2月2日夜、ニコニコ動画による解説付き生中継「驚きの芸術作品と出会うアール・ブリュット展『きおくのゆくえ』」が1時間半にわたり配信されました。中継中、番組には「実物をみてみたい」、「すごい画力」、「繊細ですごい



GALLERY リトルハイ

集中力」、「驚異的!」などの声が寄せられ、多くの反響がありました。

後半は中野ブロードウェイ商店街の4階にある「GALLERYリトルハイ」(2月16日～24日)が会場。こちらはユニークな人物画の青木尊さん、空想の街をペンと色鉛筆で細密画のように創造してしまう古久保恵満さんから、7人の作家の作品が展示されました。所狭しと展示された作品をじっと見入る人たちで連日混み合うほどの盛況ぶりでした。

このイベントは好評のうちに3月1日に会期を終了しました。多くの人の目に留まり、興味をもつきっかけになったと思われます。こうした紹介イベントを通して「アール・ブリュット」は徐々に人々に知られ、認知されるようになってきています。

今回寄せられた感想に「こういう素晴らしい作品をみると、障がいとは何かが分からなくなってきた、そこが問われてしまいます」というものがありました。当事業団としては、一人でも多くの方がこうした作品に接し、その魅力と価値を知り、そこから、障がいがある人を取り巻く環境や問題を考える機会がもてるように、引き続き支援をしていく方針です。

- 日程: 2020年1月25日(土)～3月1日(日)
- 場所: 中野ブロードウェイ商店街・野方WIZ GALLERYなど 中野区内数か所
- 主催: NAKANO街中まるごと美術館実行委員会
〈主要団体〉
中野ブロードウェイ商店街振興組合・中野サンモール商店街振興組合・テレビ朝日福祉文化事業団・(福)愛成会
〈協力団体〉
中野南口駅前商店街・野方商店街振興組合・中野レンガ坂商店会
- 協賛: 中野区
- 協力: 中野マルイ・もみじ山共栄千光会・三井住友信託銀行中野支店 ほか
- 後援: 中野区商店街連合会

WarmBlue 2019

日程：2019年4月2日(火)
場所：東京タワー広場(東京都港区) ほか
主催：(一社)Get in touch

2019電動車椅子サッカー交流大会 in とうきょう

日程：2019年5月25日(土)
場所：羽村市スポーツセンター(東京都羽村市)
主催：東京都電動車椅子サッカー協会
後援：東京都・(一社)日本電動車椅子サッカー協会・テレビ朝日福祉文化事業団



第35回 DPI日本会議全国集会 in 松山

日程：2019年5月30日(木)～31日(金)
場所：松山市総合コミュニティセンター(愛媛県松山市)
主催：(特非)DPI日本会議
後援：内閣府・外務省・厚生労働省・国土交通省・文部科学省・テレビ朝日福祉文化事業団 ほか

第67回 全国盲人福祉施設大会

日程：2019年6月20日(木)～21日(金)
場所：北海道ホテル(北海道帯広市)
主催：(福)日本盲人社会福祉施設協議会
後援：厚生労働省・北海道・帯広市・テレビ朝日福祉文化事業団 ほか

日本車いすバスケットボール連盟 第17回 ジュニア選手発掘育成講習会

日程：2019年8月15日(木)～18日(日)
場所：大阪市舞洲障がい者スポーツセンター(大阪府大阪市)
主催：(一社)日本車いすバスケットボール連盟
後援：テレビ朝日福祉文化事業団

チャレンジキャンプ2019

日程：2019年8月20日(火)～23日(金)
場所：南相木村平休場キャンプサイト(長野県南相木村)
主催：児童養護施設カルテット
後援：テレビ朝日福祉文化事業団

第42回 わらじの会 夏合宿

日程：2019年8月23日(金)～25日(日)
場所：ホテルニュー紅葉(群馬県草津町)
主催：わらじの会

第36回 全国高校生の手話によるスピーチコンテスト

日程：2019年8月24日(土)
場所：有楽町朝日ホール(東京都千代田区)
主催：(一財)全日本ろうあ連盟・(福)朝日新聞厚生文化事業団・(株)朝日新聞社
後援：厚生労働省・文部科学省・テレビ朝日福祉文化事業団 ほか



第44回 全日本ろう社会人軟式野球選手権大会

日程：2019年10月4日(金)～10月6日(日)
場所：日本製鉄東海 REX球場(愛知県東海市) ほか
主催：全日本ろう社会人軟式野球連盟
後援：文部科学省・厚生労働省・愛知県・テレビ朝日福祉文化事業団 ほか

第57回 弘済学園 わたしたちが創る展

日程：2019年12月2日(月)～4日(水)
会場：JR東京駅丸の内地下南口 動輪の広場(東京都千代田区)
主催：(公財)鉄道弘済会・(福)東京都社会福祉協議会
後援：テレビ朝日福祉文化事業団 ほか
特別協力：(株)石原プロモーション

第34回 全日本視覚障害者柔道大会

日程：2019年12月8日(日)
場所：講道館(東京都文京区)
主催：(特非)日本視覚障害者柔道連盟
後援：スポーツ庁・厚生労働省・東京都・全国盲学校長会・テレビ朝日福祉文化事業団 ほか



2020年 ハンディスキー教室

日程：2020年1月25日(土)～26日(日)
場所：琴引フォレストパークスキー場(島根県飯南町)
主催：障がい者スキー協会
後援：テレビ朝日福祉文化事業団

バディウォーク東京2020

日程：2020年3月28日(土)
場所：代々木公園ケヤキ並木(東京都渋谷区)
→(変更)新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン上で実施
主催：(特非)アクセプションズ
後援：(公財)日本ダウン症協会・テレビ朝日福祉文化事業団

高齢者施設訪問

特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどの高齢者施設をプロの歌手などが訪問し、高齢者の皆さんに楽しい時間を過ごしていただくというのがこの高齢者施設訪問です。昭和62年に施設訪問が始まってから、合計250回を数えました。

毎回それぞれの施設の皆さんが、曲に合わせて手拍子をしなが、ともに口ずさんだり。民謡から歌謡曲まで若かりし頃を懐かしみながら、笑顔あり、涙あり。ご協力いただいた歌手の方々も逆に元気をもらうような楽しい施設訪問となりました。

昨年度から開催している、DJ OSSHYこと押阪雅彦さんをお連れしての「DJ OSSHY ディスコショー」では、1960～80年代の名曲に合わせて、グーパー、フィーバーポーズ、糸巻きのポーズ、綱引きのポーズなど、いすに



座ったままお年寄りの皆さんが身体を動かします。楽しく踊った後には、皆さんの顔が薔薇色に輝き大盛り上がりイベントとなりました。

今年度は、東京都を中心に合計19の施設を訪問しました。

① 日程:2019年4月12日(金)
場所:寿楽荘(東京都奥多摩町)
ゲスト:大島花子(歌手)

② 日程:2019年4月17日(水)
場所:神楽坂(東京都新宿区)
ゲスト:大津美子(歌手)

③ 日程:2019年5月17日(金)
場所:グランモールさくら及川(神奈川県厚木市)
ゲスト:こまどり姉妹(歌手)

④ 日程:2019年6月12日(水)
場所:駒場苑(東京都目黒区)
ゲスト:園まり(歌手)

⑤ 日程:2019年7月9日(火)
場所:陽のあたる丘MISONO(神奈川県横浜市)
ゲスト:DJ OSSHY

⑥ 日程:2019年7月10日(水)
場所:いなぎ苑(東京都稲城市)
ゲスト:佳山明生(歌手)

⑦ 日程:2019年7月19日(金)
場所:グランアークみづほ(東京都品川区)
ゲスト:原田直之(民謡歌手)

⑧ 日程:2019年8月20日(火)
場所:太陽の家座間(神奈川県座間市)
ゲスト:大津美子(歌手)



こまどり姉妹



原田直之



大津美子



園まり

⑨ 日程:2019年8月29日(木)
場所:ペアウェル多摩川(東京都稲城市)
ゲスト:大島花子(歌手)

⑩ 日程:2019年10月3日(木)
場所:古千谷苑(東京都足立区)
ゲスト:こまどり姉妹(歌手)

⑪ 日程:2019年10月15日(火)
場所:けんちの里(東京都東久留米市)
ゲスト:佳山明生(歌手)

⑫ 日程:2019年10月28日(月)
場所:横浜市戸塚柏桜荘(神奈川県横浜市)
ゲスト:園まり(歌手)

⑬ 日程:2019年11月6日(水)
場所:ひのでホーム(東京都日の出町)
ゲスト:DJ OSSHY

⑭ 日程:2019年11月6日(水)
場所:サニーヒル板橋(東京都板橋区)
ゲスト:こまどり姉妹(歌手)



佳山明生



大島花子

⑮ 日程:2019年11月26日(火)
場所:浅川苑(東京都日野市)
ゲスト:原田直之(民謡歌手)

⑯ 日程:2019年12月11日(水)
場所:和光園(東京都多摩市)
ゲスト:DJ OSSHY

⑰ 日程:2019年12月23日(月)
場所:さの(東京都足立区)
ゲスト:大津美子(歌手)

⑱ 日程:2020年1月10日(金)
場所:竹の里(東京都八王子市)
ゲスト:佳山明生(歌手)

⑲ 日程:2020年1月17日(金)
場所:小平健成苑(東京都小平市)
ゲスト:大島花子(歌手)



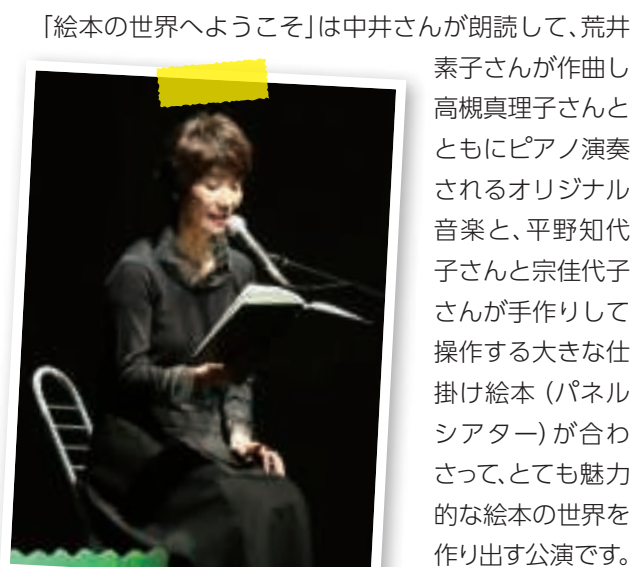
第11回 国際シニア合唱祭 「ゴールデンウェーブ in 横浜」

「健康で生き甲斐のある生涯現役の生活を送る」ための一助として、国内外のシニア合唱団が、音楽を志す者すべての憧れ「横浜みなとみらいホール」に集う合唱祭が、第11回目の開催となりました。今回は日本全国の101団体、韓国と台湾から5団体の計106団体、合計3300人以上の合唱仲間が参加しました。

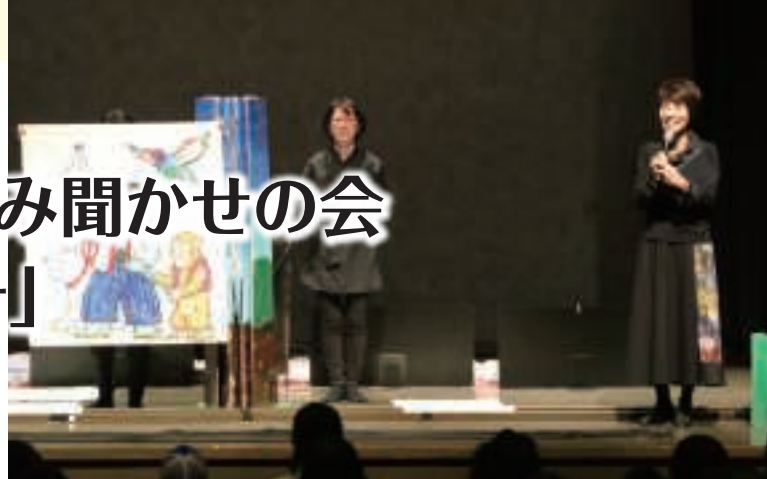
日程:2019年5月20日(月)～22日(水)
場所:横浜みなとみらいホール(神奈川県横浜市)
主催:(特非) ゴールデンウェーブ・横浜みなとみらいホール
後援:神奈川県・横浜市 ほか
特別後援:(福) 朝日新聞厚生文化事業団・テレビ朝日福祉文化事業団

中井貴恵 with 大人と子供のための読み聞かせの会 「絵本の世界へようこそ」

当事業団では、「地域における公益的な活動」として、女優・中井貴恵の「絵本の世界へようこそ」を開催しています。今年度も、母子生活支援施設のお母さんと子どもたち、児童養護施設の子どもたち、近隣の子育て中の親子、一般の方々をご招待しました。



「絵本の世界へようこそ」は中井さんが朗読して、荒井素子さんが作曲し高槻真理子さんとともにピアノ演奏されるオリジナル音楽と、平野知代子さんと宗佳代子さんが手作りして操作する大きな仕掛け絵本（パネルシアター）が合わさって、とても魅力的な絵本の世界を作り出す公演です。



れ出しました。

不思議な灰を振り撒くと、おじいさんが乗った枯れ木に花が咲き満開になりました。

会場 みんなが絵本の世界に入りこみ、軽快な音楽とともに話は進んでいきました。あっという間の約1時間の公演が終了すると大きな拍手の音が響きました。

日 程: 2020年2月15日(土)
場 所: 市川市文学ミュージアム・グリーンスタジオ(千葉県市川市)
主 催: (福) 千葉県社会福祉協議会
千葉県児童福祉施設協議会
母子生活支援施設部会
共 催: テレビ朝日福祉文化事業団

はなさかじいさん

今回の演目は、「はなさかじいさん」。正直者のおじいさんとおばあさんが大事に育てている白い犬から「ここを掘りなさい」と声をかけられ、掘ってみたら大判小判！誰もが知っているお話で、「大人と子供のための読み聞かせの会」の最新作です。

「シロ」が「ここ掘れワンワン！」
会場の皆も一緒に「ここ掘れワンワン！」
正直者のおじいさんが鎌で土を掘ると大判小判が舞台に溢れ出しました。
魔法の臼を杵で打つと今度はモコモコお米が溢



日 程: 2020年2月7日(金)～9日(日)
場 所: 飯田橋セントラルプラザ(東京都新宿区)
主 催: 東京ボランティア・市民活動センター
助 成: テレビ朝日福祉文化事業団 ほか

市民社会をつくる ボランティアフォーラム TOKYO

その他の福祉事業・団体への支援

プロ野球 ヤクルトスワローズ戦 指定席チケットプレゼント

神宮球場で行われるプロ野球ヤクルトスワローズ戦の指定席チケットを、(福) 東京都社会福祉協議会 東京善意銀行を通じて毎年プレゼントしています。今年度は、障がい者福祉施設や就労継続支援事業所、特別養護老人ホーム、放課後等サービス、母子生活支援施設など、東京都内の87の福祉施設などに、199枚をプレゼントしました。

第4回 港区地域福祉フォーラム 出展

日程: 2019年10月26日(土)～27日(日)

場所: 高輪区民センター(東京都港区)

主催: (福) 港区社会福祉協議会

第68回 東京都社会福祉大会

日程: 2019年12月23日(月)

場所: なかのZERO 小ホール(東京都中野区)

主催: 東京都、(福) 東京都社会福祉協議会、(福) 東京都共同募金会

協賛: テレビ朝日福祉文化事業団 ほか

テレビ朝日 ドラえもん募金 台風19号の被災者支援



テレビ朝日では、台風19号の被災者を支援するため「ドラえもん募金」を実施いたしました(2019年10月14日～11月4日)。

お寄せいただいた募金にテレビ朝日からの寄付金などを加えた総額は4600万円となりました。

確実・有効に被災者支援にあてられるよう、テレビ朝日福祉文化事業団を通じて以下の通り、寄託を行いました。

寄託先

宮城県・福島県・茨城県・
栃木県・千葉県・長野県へ
それぞれ600万円

岩手県・群馬県・埼玉県・
神奈川県・静岡県へ
それぞれ200万円

計 4600万円

令和元年度事業一覧

	事業名	名義
児童福祉	第1回 里旅～BOARD&SKI 2020～	主催・助成
	第1回 関東甲信越静里親協議会 次世代人材育成セミナー	後援・助成
	第19回 児童養護施設で生活する高校生の海外生活体験の旅	主催・助成
	第7回 農村ホームステイ体験の旅 in 遠野	主催・助成
	第8回 子どもキラット！楽演祭	主催・助成
	児童福祉施設職員のためのワークショップ	主催名義・助成
	第65回 関東甲信越静里親協議会 新潟大会	後援・助成
	こどもの国「ジャンボカルタとり大会」と「どんど焼き」	後援・助成
	「憩いの家」資金バザー	後援名義
母子福祉	母子のためのテレビ朝日見学体験ツアー2019	主催・助成
障がい者福祉	五感で楽しむ音楽会 2019 ～LIVE TOGETHER CONCERT～	主催・助成
	天皇杯 第47回 日本車いすバスケットボール選手権大会	後援・助成
	第43回 ハンディスキー全国親善大会	共催・助成
	NAKANO街中まるごと美術館！10周年 アール・プリュット 一人の無限の創造力を探求する2020—	主催・助成
	WarmBlue 2019	助成
	2019電動車椅子サッカー交流大会 in とうきょう	後援・助成
	第35回 DPI日本会議全国集会 in 松山	後援・助成
	日本車いすバスケットボール連盟 第17回 ジュニア選手発掘育成講習会	後援・助成
	第36回 全国高校生の手話によるスピーチコンテスト	後援・助成
	第44回 全日本ろう社会人軟式野球選手権大会	後援・助成
	第34回 全日本視覚障害者柔道大会	後援・助成
	2020年 ハンディスキー教室	後援・助成
	バディウォーク東京2020（企画内容を変更して実施）	後援・助成
	チャレンジキャンプ2019	後援・助成
	第42回 わらじの会 夏合宿	助成
	第57回 弘済学園 わたしたちが創る展	後援名義
	第67回 全国盲人福祉施設大会	後援名義
高齢者福祉	高齢者施設訪問	主催・助成
	第11回 国際シニア合唱祭「ゴールデンウェーブ in 横浜」	特別後援・助成
地域公益活動	中井貴恵 with 大人と子供のための読み聞かせの会「絵本の世界へようこそ」	共催・助成
	市民社会をつくるボランティアフォーラムTOKYO	助成
その他	プロ野球ヤクルトスワローズ戦 指定席チケットプレゼント	助成
	第4回 港区地域福祉フォーラム	出展
	第68回 東京都社会福祉大会	協賛名義

台風および新型コロナウイルス感染症拡大のために開催中止になった事業

児童福祉	第64回 全国里親大会 宮城仙台大会	共催・助成
	日本児童養護実践学会 第12回研究大会	後援名義
障がい者福祉	第49回 全国身体障害者スキー大会	後援・助成
	第35回 関東大会(身体障がい者スキー)	後援・助成
	東京国際視覚障害者柔道選手権大会2020	後援・助成

令和元年度会計報告

事業活動計算書 自:平成31年4月1日 至:令和2年3月31日

(単位:円)

勘定科目			当年度決算 (A)	前年度決算 (B)	増減 (A)-(B)
サービス活動増減の部	収益	寄附金収益	29,278,092	29,461,538	-183,446
		事業収益	0	0	0
		その他の収益	0	0	0
		サービス活動収益計(1)	29,278,092	29,461,538	-183,446
	費用	人件費	19,991,894	8,836,161	11,155,733
		事業費	38,926,877	39,084,114	-157,237
		児童福祉費	14,808,899	13,890,745	918,154
		高齢者福祉費	5,897,183	1,190,904	4,706,279
		障がい者福祉費	14,827,882	15,518,192	-690,310
		母子福祉費	1,184,993	4,199,281	-3,014,288
		その他事業費	2,207,920	4,284,992	-2,077,072
		事務費	3,483,843	1,382,416	2,101,427
		サービス活動費用計(2)	62,402,614	49,302,691	13,099,923
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)		-33,124,522	-19,841,153	-13,283,369
サービス活動外増減の部	収益	受取利息配当金収益	1,100,135	292,289	807,846
		サービス活動外収益計(4)	1,100,135	292,289	807,846
	費用	サービス活動外費用計(5)	0	0	0
		サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	1,100,135	292,289	807,846
	経常増減差額(7)=(3)+(6)		-32,024,387	-19,548,864	-12,475,523
特別増減の部	収益	特別収益計(8)	0	0	0
		特別費用計(9)	0	0	0
	特別増減差額(10)=(8)-(9)		0	0	0
	当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		-32,024,387	-19,548,864	-12,475,523
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)		14,748,841	19,297,705	-4,548,864
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)		-17,275,546	-251,159	-17,024,387
	基本金取崩額(14)		0	0	0
	基金取崩額(15)		31,000,000	15,000,000	16,000,000
	その他の積立金取崩額(16)		0	0	0
	その他の積立金積立額(17)		0	0	0
	次期繰越活動増減差額(18)=(13)+(14)+(15)+(16)-(17)		13,724,454	14,748,841	-1,024,387

令和元年度会計報告

貸借対照表 令和2年3月31日現在

(単位:円)

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	13,964,191	15,088,249	-1,124,058	流動負債	239,737	339,408	-99,671
現金預金	13,937,691	14,867,169	-929,478	事業未払金	156,297	216,158	-59,861
仮払金	26,500	221,080	-194,580	預り金	0	0	0
				職員預り金	83,440	123,250	-39,810
固定資産	926,440,110	956,966,480	-30,526,370	固定負債	12,440,110	11,966,480	473,630
基本財産	100,000,000	100,000,000	0	退職給付引当金	12,440,110	11,966,480	473,630
決済性普通預金	100,000,000	100,000,000	0	負債の部合計	12,679,847	12,305,888	373,959
				純資産の部			
				基本金	100,000,000	100,000,000	0
その他の固定資産	826,440,110	856,966,480	-30,526,370	一号基本金	100,000,000	100,000,000	0
基金積立資産	814,000,000	845,000,000	-31,000,000	その他の積立金	814,000,000	845,000,000	-31,000,000
				助成事業基金積立金	814,000,000	845,000,000	-31,000,000
				国庫補助金等特別積立金	0	0	0
				次期繰越活動増減差額	13,724,454	14,748,841	-1,024,387
				(うち当期活動増減差額)	-1,024,387	-19,548,864	18,524,477
				純資産の部合計	927,724,454	959,748,841	-32,024,387
資産の部合計	940,404,301	972,054,729	-31,650,428	負債及び純資産の部合計	940,404,301	972,054,729	-31,650,428

令和元年度 ご寄付者の報告

企業・団体・個人の皆さまからご寄付をいただきました。心からお礼申し上げます。

寄付金合計 29,278,092円

一般寄付(敬称略)

個人…4人

企業・団体…39社・団体

ALSOK東京(株)、(株)伊佐梅、(株)大塚商会、(株)関電工、(特非) ゴールデンウェーブ、(株)コマデン、(株)シービーエス、城南質屋協同組合、新日本プロレスリング(株)、ダイダン(株)、(株)台東サービス、(株)竹中工務店、(株)テルミック、(株)東京美術、東京六本木ライオンズクラブ、(株)日本歯科衛生協会、(公財) 原田積善会、富士ゼロックス(株)、富士通(株)、(株)ミヤギ、横浜エレベータ(株)東京支店

(株)テレビ朝日、(株)ビーエス朝日、(株)シーエス・ワンテン、テレビ朝日映像(株)、(株)テレビ朝日サービス、(株)東京サウンド・プロダクション、(株)文化工房、(株)フレックス、シンエイ動画(株)、(株)放送技術社、(株)テイクシステムズ、(株)トラストネットワーク、(株)テレビ朝日クリエイト、(株)テレビ朝日アスク、(株)テレビ朝日ベスト ほか

物資などのご協力 1社

(株)テレビ朝日

テレビ朝日福祉文化事業団

役員・評議員

(令和2年3月31日現在)

役職名	氏名	職業
理事長	吉田 慎一	株式会社テレビ朝日ホールディングス 代表取締役社長
副理事長	板橋 順二	株式会社テレビ朝日 取締役総務局長
理事	高橋 利一	社会福祉法人至誠学舎立川至誠学園 相談役・名誉学園長 法政大学名誉教授
理事	石野 清治	社会福祉法人同愛記念病院財団 顧問
理事	山崎 哲男	弁護士 日比谷見附法律事務所 東京六本木ライオンズクラブ
理事	三浦 公嗣	医学博士 慶應義塾大学病院臨床研究推進センター教授
評議員	宮沢 成実	元社会福祉法人東京都社会福祉協議会
評議員	根本 保	元株式会社ビーエス朝日 常勤監査役
評議員	東 ちづる	女優 一般社団法人 Get in touch 理事長
評議員	池上 和子	赤坂アイ心理臨床センター代表 学術博士 東北福祉大学特任准教授
評議員	是永 一好	社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団 事務局長
評議員	坂本 健	白百合女子大学 人間総合学部教授
評議員	高橋 幸成	社会福祉法人福音寮 児童養護施設福音寮 副園長
評議員	戸田 章子	公益財団法人原田積善会 常務理事
評議員	小林 直治	株式会社テレビ朝日 経理局長
監事	平田 和子	税理士 平田和子税理士事務所
監事	若穂井 透	弁護士 日本社会事業大学 元教授
監事	皆川 明良	公認会計士・税理士 皆川会計事務所

[ご寄付のお願い]

テレビ朝日福祉文化事業団の活動は、皆さまからのご寄付によって支えられています。
当事業団へのご寄付は、特定寄付金となります。
個人の場合は所得税の寄付金控除として、法人の場合は法人税の損金算入の対象となります。
ご寄付は、当事業団が実施する児童福祉、母子福祉、障がい者福祉、高齢者福祉ほか、
まざまな社会福祉事業へ充てさせていただきます。
なお、ご寄付の方法は下記のとおりです。

記

- 郵便振替
口座番号 00110-6-761778
口座名(加入者名) 「こころの樹」
※通信欄に「寄付金」とご記入ください。
- 現金書留で郵送
〒106-8001 東京都港区六本木6-9-1 森タワー16階
テレビ朝日福祉文化事業団 宛
※連絡先を同封してください。領収書をお送りいたします。
- 銀行振込希望の方は、事務局へご連絡ください。
電話 03-6406-2195

テレビ朝日福祉文化事業団 事業報告
令和元年度(2019年度)
年報 こころの樹
発行人 杉村全陽

令和2年(2020年)6月30 日発行
社会福祉法人 テレビ朝日福祉文化事業団
〒106-8001 東京都港区六本木6-9-1 森タワー16階
TEL 03-6406-2195 FAX 03-3405-3797
<http://www.tv-asahi.co.jp/fukushi/>
E-mail: fukushi@tv-asahi.co.jp

※文中の役職等は、その時点での表記といたしました。
※無断転載は禁じます。
©2020 tv-asahi welfare foundation

児童福祉

母子福祉

障がい者福祉

高齢者福祉

その他の福祉

その他



tv asahi welfare foundation

テレビ朝日福祉文化事業団

